

国際活動

フィリピン保健医療支援事業に看護師を派遣

～姫路赤十字病院 津田香都(こうづ)看護師～



病院長から激励を受ける津田看護係長

3月25日(月)、姫路赤十字病院で国際活動に派遣する津田香都看護係長の壮行会が行われました。津田係長は、3月27日から10月7日までの6ヶ月間、フィリピン共和国オロラ州で、保健医療支援事業にあたります。

このフィリピン保健医療支援事業は、平成23年から3か年事業として行われており、地域住民に対して衛生知識を普及させるための地域保健ボランティア等の人材育成、住民が保健サービスを受けたり公衆衛生環境の改善を図るなどの保健医療サービスの拡充、さらには、ボランティアや地域住民との研修やミーティングなどを通じて組織基盤の強化を図るというような活動をしています。

健康に気をつけて、地域の方々の方となるよう願っています。

血液事業

血液事業での国際貢献!

～ラオス国内での安全な血液製剤の供給にむけて～

日本赤十字社では、1995年から2003年までの9年間、安全な血液を供給するため、血液センターの技術及び運営管理機能を強化するなどラオス赤十字社(以下「ラ赤」という。)が行う血液事業を支援しており、2010年10月には、ラ赤社長から日赤社長あてに血液事業における品質保証機能強化事業についての支援依頼を受けています。

そこで、兵庫県赤十字血液センターの坊池学術課長らが2月7日から3月3日までの15日間、血液事業における国際貢献としてラオスに派遣されました。今回の派遣は、ラオス国内において安全な血液を安定的に供給するための品質保証機能及び運営管理機能を再強化するため、2013年から2016年まで約4年間の年次計画を策定することが目的です。

目的を果たすべく坊池学術課長らは、南部地域の6血液センターを4日間で、北部地域の1血液センターを2日間で視察して、残りの期間は中央血液センターの視察及びラ赤幹部と年次計画の策定について協議を行いました。

帰国後、坊池課長は「視察を行う中で献血現場において感じたこと、それは学生たちが楽しそうに献血していたことであり、学校関係者や赤十字スタッフが一体となって献血を推進していました。一方、驚きだったことは、日本とは異なり、赤十字が血液製剤を供給するのではなく、患者家族が血液製剤を取りにこられていたことでした。患者家族が多くの不安を抱えて来所していることを考えると、本当に安心して治療が受けられるように、安全な血液製剤を安定的に供給することが必要だと感じました」と感想を述べていました。



Bane Bunmay Secondary Schoolにおける献血の様子



献血受付の様子

ひょうごの赤十字

2013
MAY 5月

- 5月、「赤十字運動月間」がはじまります。
- 災害に備えるために
- 「にしきた献血ルーム」がオープン!
- 青少年赤十字春季リーダーシップ・トレーニング・センター
- おめでとう、全員合格!
- フィリピン保健医療支援事業に看護師を派遣
- 血液事業での国際貢献!



運動月間

5月、「赤十字運動月間」がはじまります。

～赤十字は皆さまの身近で、いのちと健康を守る活動に取り組んでいます～

日本赤十字社では、毎年5月を「赤十字運動月間」として、広く皆さまに赤十字活動を知っていただき、活動資金へのご協力をお願いしています。

兵庫県支部では、県内の交番や駐在所に救急箱を、警察署等にAEDを設置するなど、いのちと健康を守る活動に取り組んでおり、皆さまからお寄せいただいた資金は、安全・安心のための活動に活かされています。

運動月間中には、皆さまの地域の赤十字奉仕団、自治会、婦人会などを通じて、活動資金へのご協力をお願いしています。皆さまのご協力をお願いします。



 **日本赤十字社** 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸通1丁目4番5号
TEL.(078)241-9889 FAX.(078)241-6990
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>

災害救護 災害に備えるために

～東日本大震災の救護活動を踏まえ、さらなる災害対応力強化を図っています～

迅速にそして継続した救護活動を行うために、救護資機材や車両の整備を進めています。
このたび兵庫県支部では、現地災害対策本部車両（居住しながら情報収集や現地活動の指揮を行うことができる資機材を搭載した車両）と、dERU（緊急対応ユニット：仮設診療所用テントとそれを運ぶトラック）を整備しました。
今後、災害時に有効に活用できるよう、日本赤十字社各都道府県支部をはじめ防災関係機関と連携し、災害対応力の強化に努めてまいります。



現地災害対策本部車両



dERU(緊急対応ユニット)

血液事業

「にしきた献血ルーム」がオープン!

～県内7番目となる献血ルームが西宮市に誕生～

4月6日、阪急西宮北口駅に直結する「アクタ西宮西館」内に「にしきた献血ルーム」がオープンしました。
若い世代の皆さんに、献血を身近に感じていただけるよう、カフェのようにくつろげる献血ルームをイメージし、広い待合室や憩いの場となるフリースペース、キッズスペースを設置。若い世代からご家族連れなど幅広い世代の方々にゆったりと、そしてリラックスいただけるボランティア活動の場としての献血ルームをコンセプトとしています。
兵庫県赤十字血液センターでは、これまで県内の献血バス9台と6か所の献血ルームにより、医療に必要な血液の確保に努めており、平成24年度は約213,000人の方に献血にご協力いただきました。献血によって確保される輸血用血液製剤や血漿分画製剤は、患者さんにとって一命を取り留めるためにも欠くことができないものです。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

受付時間等の詳細は、血液センターホームページ等でご確認ください。皆さまお誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。



カフェのようにくつろげる内装



採血中もリラックスしていただけます

青少年赤十字 青少年赤十字春季リーダーシップ・トレーニング・センター

～「気づき・考え・実行する」自主性を養うために～

3月23日（土）から25日（月）までの3日間、明石市立少年自然の家で、兵庫県高等学校青少年赤十字春季リーダーシップ・トレーニング・センターを開催しました。

県内の9校から集まった青少年赤十字メンバーのほか、青少年赤十字指導者、神戸青年赤十字奉仕団員、姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団員、兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団員等、40人が参加。メンバーの参加人数は昨年よりも多く、とても元気で賑やかなプログラム展開となりました。

今回のプログラムには赤十字救急法の基礎講習が組み込まれ、AEDを使った心肺蘇生のほか、三角巾を使ったきずの手当、ロープワークなどを体験。2日目のフィールドワークでは、青年赤十字奉仕団員が用意した問題やゲームなどの関問に挑戦。研修中に学んだ救急法等の知識や技術を駆使し、力を合わせて解決していきました。

最終日のグループワークでは、3日間で学んだことを「壁新聞やイベントのプログラムで表現する」というテーマで、各グループからの発表に、大いに盛り上がりました。

また、兵庫県日赤有功会の北村会長が激励に訪れ、有功会からメンバーたちへ赤十字マークの付いたトートバッグが贈られました。

3日間という短い研修期間ではあったものの、先生の指示やチャイム等の合図のない生活の中で、メンバーたちは、自分で時計を見て行動する、周囲に目を向ける、人を気遣う、自分の意見を伝え他人の意見を聞く等、これから社会生活を送る上で、大切な姿勢を身につけることができました。

桜が開花する頃、初めて出会った友達との交流にも花が咲き、とても有意義な研修となりました。



メンバーたちに笑顔で話す北村会長



発表会では習ったばかりの救急法も披露

看護師等の育成

おめでとう、全員合格!

～看護学生の皆さん、そしてララスワティさん～

3月25日（月）、姫路赤十字看護専門学生の36人全員が第102回看護師国家試験に合格しました。
国家試験1ヶ月前の1月16日に近衛本社長と対面し、「頑張ってください」と激励を受けたことに感謝し、ますます勉強に励んだ学生たちでしたが、3月6日に卒業はしたものの、この日が来るまでは落ち着かない日々を送っていたことでしょう。また、EPA（経済連携協定）でインドネシアから看護師候補生として来日し、姫路赤十字病院で学んでいたララスワティさんも、合格率9.6%の狭き門を突破し、みごと合格。



全員合格、ほんとうにおめでとう!

ララスワティさんは、平成23年に来日、今回2回目の受験となりました。平成23年にスワルティ看護師、平成24年にはサルティカ看護師が合格しており、現在も姫路赤十字病院で頑張っています。合格の感想を聞かれたララスワティさんは、「まわりの支援のおかげで合格できました。将来は日本で働きたいです」と、笑顔で話していました。

姫路赤十字看護専門学校の皆さん、ララスワティさん、これからは看護師として頑張ってくださいと思います。